2660地区 DDFシェアー会議報告

地区ロータリー財団委員会委員長 佐藤 俊一
（大阪鶴見RC）

ご存知のように財団の年次寄付金は一旦ＲＩの財団管理委員会にプールされ２年後に投資収益を含めてその半分は地区にもどってきます。その地区資金は一定の制約のもとではあるが地区が自由に使用できる地区財団活動資金です。それをDDF（District Designated Fund）といいます。

ＤＤＦシェアー会議とは、一般会員にとっては馴染みのない会合とおもわれますが、じつは来年以降のＤＤＦつまり地区に戻った財団の資金をどのような分野に使用するかの重要な会議です。大きくわけて人道的分野、教育的分野、寄贈分野のどこにバランスよく、あるいは重点的に配分するかを決定します。そのため、財団委員会のみならず、財団に関係のある委員会、しかも2009-10年度予算に関するものなので次年度の財団関係者もオブザバーとして出席していただきました。

会議では、まず横山ＧＥより次期マジアベロータリー財団管理委員会委員長の2008-09年の財団目標の説明がありました。

ついで、財団委員長をはじめ各委員長より、本年度の財団活動に対する総括と問題点、将来への目標などが述べられました。

特に国際親善奨学生は語学選考のレベルが高すぎて、募集人数が定員割れしたこと、一方では補助金に関しては、申請したクラブが以前より増えたため予算を超えそうな状況でした。

次項の図のＤＤＦバランスシートで注目していただきたいのはＴＲＦ新規ＤＤＦ配分額の年次ごとの比較ですが、年々減少していっているのがお分かりのこととおもいます。これは地区の年次寄付金がすくなくなってきていることを意味し、分配するパイの大きさが小さくなっていることです。前年と同じ事業をするためには保存食である繰越金を食いつぶすことになりますが、それも将来のために問題もあるので、結局そのしわ寄せは財団奨学生の派遣数の減少にあらわれています。世界的にみても教育的分野より人道的分野に比重が置かれている傾向にありますが、当地区も結果的に教育的分野の配分がすくなくなってきています。

なお、ＧＳＥ交換プログラムの派遣の旅費などはWF（World Fund）、つまりＤＤＦに対する国際財団活動資金より出ていますが、受け入れの経費は地区で負担することになっています。

また、平和フェロー（平和奨学生）などのプログラムは全世界の地区より寄贈された額に応じて実施されますが、当地区は平和フェローを派遣させるだけの寄贈をし、充分な貢献を継続的にしてきたといえます。言いかたは露骨ですが、平和フェローを輩出させなければ損です。

また、ＲＩより今回ポリオ撲滅のための各クラブ３年間1000ドルの寄付要請（地区合計年86000ドル）がきており、これは地区のＤＤＦの範囲内では賄うことができず、やはり別個の寄付として各人2000円以上はご協力をお願いしたい。